

**製品名: SP1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21589**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:100kD;Observed MW:100kD

**抗原情報**

遺伝子名	SP1
別名	SP1;TSFP1;Transcription factor Sp1
遺伝子 ID	6667.0
SwissProt ID	P08047
免疫原	ヒト SP1 の組み換えタンパク質

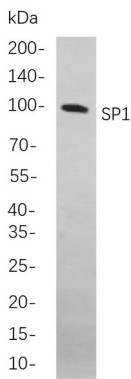
**背景**

細胞局在: 核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、多くのプロモーターの GC リッチモチーフに結合するジンクフィンガー転写因子である。コードされるタンパク質は、細胞分化、細胞増殖、アポトーシス、免疫応答、DNA 損傷への応答、クロマチン

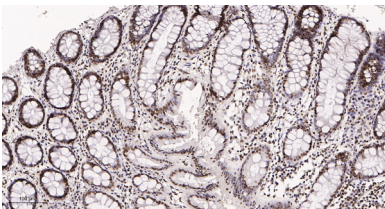
リモデリングなど、多くの細胞プロセスに関与している。リン酸化、アセチル化、グリコシル化、タンパク質分解プロセッシングといった翻訳後修飾は、このタンパク質の活性に大きく影響し、活性化因子としても抑制因子としても機能する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つかった。[RefSeq 提供、2014年11月]

## 研究分野

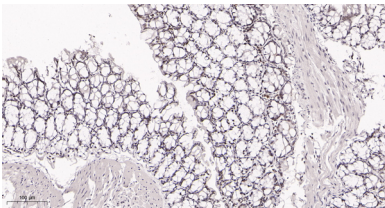
## 画像データ



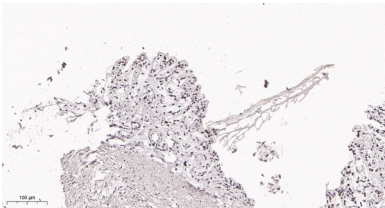
Caco-2細胞ライセートのウエスタンブロット解析（SP1 ウサギ mAb を使用）。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用しました。



パラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学分析。1、SP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈した（4°C、一晚）。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用した（>98°C、20分）。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、30分）。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、SP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用（>98°C、20分）。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30分）。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、SP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈した（4°C、一晚）。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用した（>98°C、20分）。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、30分）。